

疫学情報 2017年7月5日分

[http://www.fsc.go.jp/e-mailmagazine/mailmagazine\\_h2906\\_r1.html](http://www.fsc.go.jp/e-mailmagazine/mailmagazine_h2906_r1.html)

[生活の中の食品安全 -ジャガイモによる食中毒について知ろう！- その1]

食品安全委員会 平成29年6月16日配信

毎年のように食中毒が起きている

ジャガイモは、カレーに、肉じゃが、フライドポテトなどでおなじみの食材です。日本人は、一人1日あたり、ジャガイモ及びジャガイモ加工品を約25g食べています。

しかし、そのような身近な食材であるジャガイモで、毎年のように全国で食中毒が起きています。

■学校において、7月に多発

原因施設は、ほとんどが学校です。また、発生時期は、6～9月、11～2月で、特に7月が多いことが特徴です。

ジャガイモの有害成分とは ■ソラニン、チャコニンとは

ジャガイモの食中毒は、ジャガイモに含まれるソラニンやチャコニン等のアルカロイド（ステロイド系アルカロイド配糖体）と呼ばれる有害成分を多く食べることにより起こります。ソラニン等は、ジャガイモの発芽部や緑色の皮の部分に多く含まれる物質で、古くから知られています。

通常、ジャガイモの芽の部分除去したり、皮が緑色のジャガイモは食べないようにしたりして、安全を確保しています。

農家が生産し、お店で販売されているジャガイモの場合、食中毒を起こすほどの量のソラニン等が含まれていることは、まずありません。

しかし、自家栽培した未成熟で小さなジャガイモや、日光が当たり皮の部分が緑色になってしまったジャガイモの場合は、ソラニン等の含有量が多くなっている可能性が高く、注意が必要です。

■どんな症状がでる？

ソラニン等による食中毒の症状としては、おう吐、下痢、腹痛、めまい、動悸、耳鳴り、意識障害、けいれん、呼吸困難などが起こります。

ひどい場合は、死に至ることもあります。

症状は、早いときは数分後から出始め、遅いときは数日後に出ることもあります

どのぐらい食べると食中毒になる？ ■食中毒になる量は

体重が50kgのおとなの場合、ソラニンやチャコニンを50mg摂取すると、症状が出る可能性があります。また、150mg～300mg摂取すると、死に至る可能性があります。また、子どもの中毒量は、15.6mg～40mgとされています。

■ジャガイモに含まれる量は

通常のジャガイモの可食部分には、100gあたり平均7.5mgのソラニンやチャコニンが含まれており、そのうち3～8割は皮の周辺にあります。光にあたって緑色になったところは、

100g あたり 100mg 以上のソラニンやチャコニンが含まれているといわれています。

■過去の食中毒事例では

2010 年に東京都内の中学校で起きた食中毒事例では、ゆでたジャガイモを皮つきで食べたところ、1 時間後に 29 名中 9 名で食中毒の症状が出ました。残ったジャガイモを分析したところ、100g あたり平均約 40mg のソラニンやチャコニンが含まれていました。

また、2006 年に東京都内の小学校で栽培したジャガイモを食べたことにより起きた食中毒事例では、残ったジャガイモのソラニン等の含有量の平均値は、ジャガイモ 100g あたり 71mg でした。これらの事例で食中毒の原因となったジャガイモには、通常の 5 倍以上の濃度で、ソラニン等が含まれていました。子どもの場合、上記の 2010 年のジャガイモでは約 40g、2006 年のジャガイモでは約 30g 食べると、食中毒を起こす可能性があります。

<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO18483070U7A700C1CR8000/> 日本経済新聞

梅毒で赤ちゃん 5 人死亡 未検診、胎内感染の要因に

2017/7/5 1:06

2011～15 年の 5 年間に、21 人の赤ちゃんが妊婦からの母子感染による「先天梅毒」と診断され、うち 5 人が死亡、4 人に後遺症があったとの調査結果を、日本産科婦人科学会が 4 日までにまとめた。梅毒は発見すれば投薬で治せるが、妊婦健診を適切に受けなかったため、母子感染につながったとみられる。

調査に参加した日本大の川名敬教授（産婦人科学）は「経済的な事情で健診を受けられない人がいる。費用の免除など社会的な支援が必要だ」と強調。「望まない妊娠のため健診を受けない人がいることも、先天梅毒の発生の要因になっている」と指摘している。

産婦人科の高度な医療を提供できる全国 257 病院を調査。妊婦 166 人の感染者がいたことが分かった。4 分の 1 は定期的に健診を受けておらず、胎盤を通じて赤ちゃんに感染した可能性がある。

梅毒は細菌による性感染症で、大人では初期は性器や唇などに、しこりやリンパ節の腫れが出て、進行すると全身に赤い発疹ができる。赤ちゃんが先天梅毒になると死亡するほか、心臓や目、耳の障害を引き起こすことがある。

昨年 1 年間に報告された梅毒の患者数は約 40 年ぶりに 4 千人を超え、20 代女性の感染が急増している。〔共同〕